

患者さんへの臨床研究のお知らせ

自治医科大学附属さいたま医療センター 一般・消化器外科では、下記の臨床研究を実施しております。

【研究課題名】

複雑な鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡併用前方到達法（ハイブリッド法）の有用性に関する検討

【研究責任者】

自治医科大学附属さいたま医療センター 一般・消化器外科 講師 辻仲眞康

【研究の対象となる方】

2017年12月1日から2019年7月31日の間に、当科で鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡併用前方到達法（ハイブリッド法）による手術を受けた患者さんです。

【研究の目的・方法】

当科で行っている鼠径ヘルニアに対する手術方法は、からだの表面から修復を行う前方到達法と、腹腔鏡を用いてお腹の中から修復を行う腹腔内到達法の二つがあります。通常は、鼠径ヘルニアの分類や患者さんの状態を考慮して、どちらの術式を選択するかを決定しています。しかし、前立腺全摘術を受けた後に鼠径ヘルニアが発症した場合や、過去に鼠径ヘルニア手術を受けた後に再発をきたした場合は、ヘルニアの診断が難しく、手術後の癒着により手術が困難になることがあります。当科では、このような「複雑な鼠径ヘルニア」に対して、腹腔鏡を併用した前方到達法（ハイブリッド法）による手術を行っています。この方法の利点は、初めに腹腔鏡を用いて腹腔内からの観察を行うことで、ヘルニアの診断を正確に行うことができること、さらに前方からも腹腔内からも修復ができることです。この研究の目的は、これまでに当科で行われた鼠径ヘルニアに対するハイブリッド法による手術について、手術の適応、ヘルニアの診断、修復方法、術後合併症、術後ヘルニア再発等に関して検証を行うことです。

【研究に用いる試料・情報の種類】

情報：年齢、性別、既往手術や併存症の有無、ヘルニアの診断、ヘルニア修復方法、手術時間、出血量、術後の合併症、術後ヘルニア再発、等。

【研究期間】

この研究の期間は、 年 月 日から 2020年8月31日までです。

【本研究に関する問い合わせ】

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

また、本研究の対象となる2017年12月1日から2019年7月31日の間に、当科で鼠径ヘルニア手術を受けた患者さんで、どのような修復術を受けたかわからない方でも、お問い合わせいただくことができます。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

お問い合わせ先

〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町 1-847
自治医科大学附属さいたま医療センター

TEL048-647-2111

研究担当者：一般・消化器外科（辻仲眞康）

苦情の窓口

自治医科大学附属さいたま医療センター

総務課 TEL048-648-5225